

## ■能面・狂言面

老人や女性、鬼など多くの種類があります。月替変わりで3面ずつ展示しています。(製作：岩崎久人)

### 《4月》

女性役の面として用いられる機会の多い「増女（ぞうおんな）」、女性の嫉妬や恨み、悲しみを極限まで凝縮した表情の「般若（はんにゃ）」、蚊の精など動植物の精や亡霊などに使用され、口をすぼめたユーモラスな表情が特徴の狂言面「空吹（うそぶき）」を展示。



「増女」



「般若」



「空吹」

### 《5月》

女性役の面として用いられる機会の多い「小面（こおもて）」、天狗の役などに使用される「大癡見（おおべしみ）」、鬼の役などに使用され、「大癡見」の影響を受けている狂言面「武悪（ぶあく）」を展示。



「小面」



「大癡見」



「武悪」

## 《6月》

女性の役に使用する能面「万媚（まんび）」「曲見（しゃくみ）」、狂言面「乙（おと）」を展示。女の面には様々な種類が存在し、表現する役柄の年齢や性格によって使い分けられています。



「万媚」



「曲見」



狂言面「乙」

## 《7月》

男性の役に使用する能面から、在原業平の気品と憂いの相貌を表した「中将」、源氏の老将・源頼政の気骨と怨念を表した「頼政」、盲目となった平家の勇将・悪七兵衛景清の老残の相貌を表した「景清」を展示。



「中将」



「頼政」



「景清」

## 《8月》

横浜能楽堂のスタッフが選んだ「怖い面」を展示。3面とも怨霊の役に使用する能面ですが、それぞれの能面に表現された感情は、「苦しみ」「嫉妬」「怒り」と、異なっています。みなさんはどの能面が一番怖いと思いますか？



「甘柘榴悪尉」  
(あまざくろあくじょう)



「橋姫」  
(はしひめ)



「蛙」

## 《9月》

9月の敬老の日にちなみ、尉面（老人の面）を展示。能には代表的なものでも10種類近い尉面があり、神や亡霊の化身、草木の精、老父など、様々な老人の役柄に合わせ、使用されます。また狂言では老人の役に「祖父」などの面が使用されます。



「舞尉」  
(まいじょう)



「祖父」



「小牛尉」  
(コウシジョウ)

## 《10月》

動物の役に使用する狂言面を展示。狂言には、イヌやウマ、タヌキなど様々な動物が登場します。狂言面「猿」「狐」は、その名の通りサルやキツネの役に使用します。さて、「賢徳（けんとく）」は、どんな動物に使用すると思いますか？



狂言面「猿」



狂言面「狐」



「賢徳」

## 《11月》

女性の怨霊面を展示。中世説話の中で、女性は、嫉妬や怨みの思いが極限まで昂ると、蛇（鬼）に化すとされていました。「生成（なまなり）」「般若」「真蛇（しんじゃ）」の各面は、順に女性が人から蛇へと変化していく過程を表しており、激しい怒りや深い悲しみなど、複雑な感情が表現されています。



「生成」  
(なまなり)



「般若」



「真蛇」  
(しんじゃ)

## 《12月》

今月は、人間ではない存在に使用する異形の面を展示します。「大獅子」は、能「石橋」に登場する霊獣・獅子役に、「野干」は、能「殺生石」に登場する妖狐役に使用します。「武悪」は、狂言「八尾」の閻魔王や、狂言「首引」の鬼などに使用されます。



「大獅子」



「野干」



「武悪」

## 《1月》

お正月には、多くの能楽堂で「翁」と呼ばれる天下泰平や五穀豊穡を祈念する儀式性の高い曲が上演されます。「翁」で使用される面は、ご神体とされ、非常に大切に扱われます。現在では、「白式尉」「黒式尉」の2種類を用いて上演されますが、特殊演出で「父尉」も用いられます。



「白式尉」



「黒式尉」



「父尉」

## 《2月》

今月は代表的な女面である「小面」を3面展示します。女面には「小面」「若女」「万媚」など多くの種類があり、演じる役に合わせて使い分けられていますが、同じ種類の能面でも実は表情が少しずつ異なります。見比べてみて、推しの「小面」を探してみてください。



「小面」



「若女」



「万媚」

《3月》

能面は「本面」と呼ばれる古くから伝承された基本となる面や、それを模写した「写し」が基本となっていますが、それ以外に、新たに創作された面を「創作面」と呼んでいます。能面作家の岩崎久人さんの創作面の世界をお楽しみください。



「女面」



「焔」  
(ほむら)



「藻」  
(みくず)